

南アジアのキリスト教 - インドを中心に -

< 内容 >

1. 問題
2. インドのキリスト教史の概観
3. インドの近代化とキリスト教
4. インド・キリスト教の意義
5. まとめ

< ポイント >

1. 問題

1. 宗教的多元性の問題に関する事例研究
2. 全体的な状況:

図表 南アジアにおける宗教人口の変動(総人口に対して占める信者数の%)

	1900年	1970年	1975年	1980年	2000年
インド					
キリスト教	1.7	3.5	3.7	3.9	4.7
ヒンドゥー	80.0	79.8	79.3	78.8	76.1
イスラーム	13.7	11.2	11.4	11.6	12.0
スリランカ					
キリスト教	10.6	8.7	8.5	8.3	8.0
仏教	59.2	66.1	66.5	66.9	68.5
ヒンドゥー	23.2	17.4	16.7	16.0	13.2
イスラーム	6.9	7.0	7.1	7.2	7.6
パキスタン					
キリスト教	0.4	1.7	1.8	1.8	2.0
イスラーム	82.1	96.8	96.8	96.8	96.8
ヒンドゥー	14.0	1.4	1.3	1.3	1.1
バングラデシュ					
キリスト教	0.1	0.4	0.5	0.5	0.8
イスラーム	65.6	82.2	84.9	85.9	88.4
ヒンドゥー	32.7	16.5	13.7	12.7	10.0
仏教	0.5	0.7	0.7	0.6	0.5
ネパール					
キリスト教	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヒンドゥー	77.0	88.1	88.8	89.6	91.0
仏教	20.0	7.5	6.8	6.1	6.5

イスラーム	1.0	3.0	3.0	3.0	2.8
-------	-----	-----	-----	-----	-----

国家による特定宗教の保護政策(国教化)

宗教は社会や文化と一体であり、どの宗教に帰属するかは、生き方や生活の全体を規定する問題となる。

インド	1900年	1970年	1975年	1980年	2000年
キリスト教徒	1.7	3.5	3.7	3.9	4.7
隠れた	0.5	0.9	1.0	1.1	1.5
自認した	1.2	2.6	2.7	2.8	3.2

2. インドのキリスト教史の概観

1. 伝説:トマスの宣教

3. 使徒トマス:紀元52年、200年までには正教会がインド南部に定着
4. シリア正教会:インドの教会とペルシア教会との結びつき
ペルシア教会:カルケドン公会議(451年)後ネストリウス派
5. シリアの「カナのトマス」を指導者とする移民団の伝承
6. 8世紀から9世紀ものとおもわれる二組の銅板が発見

2. 東方シリア正教会(Orthodox Syrian Church of the East)

7. インドのキリスト教の分布:最南端部と東部に集中(ケララ州、タミルナードゥ州、アンドラプラデシュ州の三州だけでインドのキリスト教徒の60%を超える)
ケララ州:人口の21.05%(1971年)がキリスト教徒
8. 1665年にマル・トーマ教会の要請で、東方教会主教マル・グレゴリウスがケララ州に到着 伝統的なネストリウス派ではなくヤコブ派(単性論派の教会)
現在のシリア正教会(200万人)はキリスト単性論
9. 分裂の歴史:ポルトガル・カトリック教会、イギリス・イギリス国教会

3. ローマ・カトリック教会

10. 1498年にヴァスコ・ダ・ガマがインド南西のカリカットに到着
ポルトガル:ポルトガル化を基本とした植民地政策(パドロード政策)
11. 1599年:デIAMベル教会会議
1533年:ゴア司教区が設立、1542年:フランシスコ・ザビエル
12. 17世紀に前半にイエズス会士ロベルト・デ・ノビリが徹底した土着化を試みる
典礼論争 cf.マテオ・リッチの中国伝道:
ジャック・ジェルネ『中国とキリスト教 最初の対決』(法政大学出版局)
13. 第二バチカン公会議以降、1969年:バンガロールでの全インド・セミナー

4. プロテスタント諸教派

14. 1706年にデンマーク王派遣の宣教師

15プロテスタント諸教派の活動:教育と社会活動

16.合同教会:北インド教会 (Church of North India, CNI: 1970)

南インド教会 (Church of South India, CSI: 1947)

5. 植民地化と独立後

17.R.M.ロイ: 1)キリスト教への改宗は不要

2)キリスト教の倫理性、とくにそれに基づく近代的西欧的な教育

18.西欧近代とキリスト教のインパクトインド 言語と宗教の多元性の中から統一的な民族意識 (1885年のインド国民会議派の創設)

新しい民族国家の形成・独立へ

19.インド: 多宗教国家、世俗主義、二重宗教籍の問題

20. インド・キリスト教の歴史のマクロな動き: 排他主義的イデオロギーから、包括主義、多元主義への転換

21. 排他主義(exclusivism)、包括主義(inclusivism)、多元主義(pluralism)

3. インドの近代化とキリスト教

1. 近代インド・キリスト教史の光と影

22.二つのキリスト教の並存性

23.欧米キリスト教の影響:二つの面

(1)排他主義(改宗や回心の要求によって推進される観念群 = イデオロギー)

最終的には大幅な路線変更: 1880年代ごろ

(2)インド社会に対する貢献

マザー・テレサの活動に象徴される諸活動

24. Maranatha Ministries of India のホームページ(<http://www.mmindia.org/>):

House Constructions/ Educational Scholarships/ Marriage Assistance/ Training Center/
Medical Assitance/ Reading Rooms

2. インドの宗教的状況への適合と批判

1)ヒンドゥー教・カースト制度に基づく社会秩序への同化・共存

問題: a.キリスト教的社会理念との矛盾

b.宗教としての停滞

2)カースト的な伝統の否定

問題: インドの宗教文化的伝統の破壊者としてのキリスト教

近代化が目覚めさせたインドの民族精神(民族主義)の側から痛烈な拒否

3. ヒンドゥー教によるキリスト教受容

1)ヒンドゥー・キリスト教: 19世紀半ば(1858年以降)

イエス・キリストを主であると告白するが、西欧宣教師の統制を拒否し、
ヒンドゥー文化やインド民族主義を前面に出したヒンドゥー・キリスト教形成
キリスト教ノインド的キリスト教(ブラザー・バクト・シン)

ノヒンドゥー・キリスト教

／キリスト教的ヒンドゥー教／ヒンドゥー教

2) 世俗的運動に対する影響

インドにおける新しい歴史意識あるいは人間意識：

M.M.トーマス：イエスの「山上の説教」に示された人間理解、アガペー的愛
がヒンドゥー・ルネサンスに中心的な影響を及ぼした

ブラフマ・サージ協会：ラーム・モーハン・ロイ

ケーシャブ・チャンドラ・セーン

ラーマクリシュナ運動：シュリー・ラーマクリシュナ

タゴール、ラダクリシュナン、マハトマ・ガンディー

ラーム・マノハル・ロヒア、アショカ・メータ

改宗や回心とは別の仕方における精神的な交流

4 . インド・キリスト教の意義

1 . 宗教的多元性におけるキリスト教

宗教の平和的共存のモデル、さらに「共存から対話へ」

25. パニカー (Panikkar, Raimund.):

現代世界も転換点とキリスト教がジレンマ

普遍性症候群

ヨルダン川 (キリスト論と三位一体論、排他主義)

ティベル川 (教会論と救済論ローマ、他宗教に対して回心を要求する包括主義)

ガンジス川 (植民地時代後のための神学の挑戦、多元主義)

26. 多元主義に基づくキリスト教神学の構築：

キリスト教世界 (文明) やキリスト教 (宗教) という枠 「キリスト教らしさ」

christianness

キリスト教自体の多元性と宗教の多元性

健全な多元主義 (a healthy pluralism)

2 . 新しいキリスト教の形態の創出

27. 現代西洋人の生活：忙しさという一種の文化病 瞑想の欠如

修道院と世俗生活のあれかこれかの選択

28. キリスト教・アシュラムの運動

スタンレー・ジョーンズ (Jones, Eli Stanley, 1884-1973)

「日本クリスチャン・アシュラム連盟」

「アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を

取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈祷運動である」

29. ヒンドゥー教の伝統的なアシュラム (退修) キリスト教に導入

5 . まとめ

< 文献 >

1. 『世界キリスト教百科事典』(教文館 1986年)
David B.Barrett(ed.), *World Christian Encyclopedia*, Oxford Univ. Press 1982
cf. 『World Yearbook 1998 世界年鑑』(共同通信社、196頁)
2. 日本基督教団出版局編『アジア・キリスト教の歴史』 1991年
葛西[1991]: 葛西實 「インド」(日本基督教団出版局編『アジア・キリスト教の歴史』)
1991年 435-489頁
3. 中嶋正昭訳 『怒れ、光消ゆるとも - アジアの苦難の中で - 』(教文館) 1980年
4. ジョン・ヒック、ポール・ニッター 『キリスト教の絶対性を超えて』(春秋社)
Hick/Knitter(ed.), *The Myth of Christian Uniqueness. Toward a Pluralistic Theology of Religions*, Orbis 1987
Raimundo Panikkar, The Jordan, the Tiber, and the Ganges. Three Kairological Moments of Christic Self-Consciousness,
in: John Hick and Paul Knitter[1987], pp.89-116
5. G. デコスタ編『キリスト教は他宗教をどう考えるか』(教文館)
D'Costa(ed.), *Christian Uniqueness Reconsidered. The Myth of a Pluralistic Theology of Religions*, Orbis 1990
Thomas[1990]: M.M.Thomas, A Christ-Centered Humanist Approach to Other Religions in the Indian Pluralistic Context, in: Gavin D'Costa(ed.), *Christian Uniqueness Reconsidered. The Myth of a Pluralistic Theology of Religions*, Orbis Books 1990, pp.49-62
6. Antony Copley, *Religions in Conflict. Ideology, Cultural Contact and Conversion in Late Colonial India*, Oxford University Press 1997
7. Helen Ralston, *Christian Ashrams. A New Religious Movement in Contemporary India*, Rdwim Mellen Pr. 1988
8. George Menachery(ed.), *St. Thomas Christian Encyclopaedia of India*, South Asia Research Assistance Services 1998
9. 芦名[1999]: 芦名定道 「『宗教の神学』の現状と課題」(『宗教学会報』No.11 1999)
大谷大学宗教学会 29-56頁
芦名定道 「キリスト教と東アジアの近代化」(『アジア研究所紀要』第25号、亜細亜大学アジア研究所、1999年) 137-162頁
10. H.I. マルー 『キリスト教史2 教父時代』(講談社)
11. John Dominic Crossan, *Jesus. A Revolutionary Biography*, 1995 Haper San Francisco,
12. 日本キリスト教団部落解放センター編 『カースト差別と解放運動 インド被差別民衆のたたかい』(NCCキリスト教アジア資料センター)
13. 森本達雄 『ガンディー』(講談社)
14. Jacques Waardenburg (ed.), *Muslim Perceptions of Other Religions. A Historical Survey*, Oxford University Press 1999
15. Aloysius Pieris, S.J., The Buddha and the Christ: Mediators of Liberation,
in: John Hick and Paul Knitter (ed.), *The Myth of Christian Uniqueness*.

Toward a Pluralistic Theology of Religions, Orbis Books 1987,
pp.162-177

Knitter[1988]: Paul Knitter, Foreword, in: Aloysius Pieris, S.J., *An Asian Theology of Liberation*, T & T Clark 1988, pp.xi-xiv

16. 星川啓慈 『言語ゲームとしての宗教』(勁草書房)

17. Eugene H. Peterson, *Working the Angles. The Shape of Pastoral Integrity*, Eerdmans
1987

18. E. スタンレー・ジョーンズ 『インド途上のキリスト』(日本クリスチャン・アシュラム連盟)

海老沢宣道 『アシュラムの原則と実際』(日本クリスチャン・アシュラム連盟)

19. 神田健次「エキュメニカル運動」(『福音と世界』2000/8 新教出版社)18-23,50頁

< 後期の講義予定 >

第二章：自然神学の諸問題

2 - 1: 自然神学は過去の遺物か？

2 - 2: 自然神学とは何か - 歴史的起源 -

2 - 3: 自然神学をめぐる諸立場

1. 自然神学批判

2. 自然神学の再評価 - 合理性をめぐる -

3. 自然神学と現代神学

第三章：近代科学とキリスト教

1. ニュートンとニュートン主義

2. 「宗教と科学」の関係をめぐって